

第三種郵便物承認 HSK 通巻3891号2014年8月8日発行

HSK

会報「石川守る会」

No. 67

石川県重症心身障害児（者）を守る会

全国重症心身障害児（者）を守る会

石川県支部 会長 山本 衛

梅雨明けもまだで蒸し暑い日が続いておりますが、会員の皆様方、
お子様方はお変わりございませんでしょうか。

各地で大雨や崖崩れなどの被害が伝えられています。

災害の時に抵抗力の弱い重症児者や高齢者の避難の方法を普段か
ら考えておく必要があります。家族だけでなく行政や事業所の方
とも連携をとることが大切だと思われます。

先日東京で「全国守る会」の創立50周年記念大会が行われま
した。50年前の重症児者にまだ理解のない時代から地道に運動
を続けてきて今があるのだということをしみじみ考えさせられ
ました。

今年は本部補助事業で療育キャンプを計画しています。

ぜひ多くの方のご参加をお待ちしています。



平成26年度

石川県重症心身障害児（者）を守る会総会の報告

5月18日(日)医王病院の研修室をお借りして平成26年度「石川守る会」の総会が開催されました。

当日は石川県健康福祉部障害保健福祉課宮崎課長様、金沢市福祉局障害福祉課二宮課長様、医王病院関院長様、同じく安田看護師長様、石川特別支援学校北元校長先生、医王特別支援学校氏家校長先生に来賓としてご臨席頂きました。

宮崎課長様からは障害児者に係る一連の法改正が終了し、障害者権利条約の批准もなされました。石川県でも障害のある方々が安全で安心して暮らせることを目的として「石川障害者プラン201」の策定に取り組んでいることが話されました。

二宮課長様からは金沢市ではノーマライゼーションプランを6年かけて当事者のみなさんを始め各方面の意見を伺いながら策定してきた経緯が話されました。また重症児者のニーズにあった医療福祉プラン必要性についても話されました。

関先生からは平成24年度に立ち上げられた「石川県重症心身障害医療地域ネットワーク」の活動報告がされました。高度の医療を常時必要とする超重症児が増加してきており、また入所中の人たちの高齢化も進んできていて、小児科だけではなく外科、整形外科、泌尿器科など各科の連携・協力が不可欠となっている。平成25年度には石川県内の病院や施設に入院・通院している人たちにアンケートを実施し実態調査をした。講演会やシンポジウムなども開き情報交換をしているとの報告でした。

新しくブロック長になられた三重の松尾さんからは創立50周年を迎えた「守る会」の運動についてその初心に立ち返ることの大切さが話されました。また、50周年記念大会には天皇・皇后両陛下がご臨席なさるとの報告もありました。

その後平成25年度の事業及び会計報告が提案・承認されました。引き続き平成26年度の事業計画案と予算案が提案されました。今年は本部補助事業として療育キャンプを申請していることや年齢超過の人たちの訪問教育が始まったことも報告されました。少しずつではありますが子どもたちの生活が豊かになればとの思いは前進させていきたいものです。また、地味ではありますが、在宅のお母さん方による毎月の誕生日カード作りの活動も報告されました。

全ての議案が承認されて総会は閉会しました。子どもたちのためにこれからも協力しあいましょう。ご苦労様でした。

「全国重症心身障害児(者)を守る会」創立50周年記念大会

“ 石 川 か ら 8 名 参 加 し ま し た ”

去る6月8日(日)～9日(月)、東京で開催された「全国守る会」創立50周年記念大会に参加してきました。

当日はグランドプリンスホテル新高輪「国際館パミール」というとても素晴らしい会場が1200名の参加者で満席となりました。

1日目は女優で重い障害のある長男を育てられた石井めぐみさんの講演から始まりました。

出産時のトラブルで重い障害を持って生まれてきた我が子が受け入れられず、親子ともに苦しんだ時期があったことを話されました。親の心の動揺や間違った信念に翻弄された子どもはストレスにより体調を崩すという形で伝えてくれて初めて気づいたとのことでした。

それからは障害児の通園事業を利用するなどして楽しい体験をすることで笑顔も見られるようになったようです。

その後重症児者のことを皆さんに知ってほしいとの思いを強く持つようになり本を出したり、ドキュメンタリー番組「ゆっぴいのばんそうこう」の制作に尽力されました。番組制作に当たっては明石家さんまさんなどの後押しもあったとのことでした。放映後は外に出ても声をかけたり手伝ってくれる人が増え、人は本当のことを知れば変わるのだとの思いを強く持たれ、共に生きる街作りに関わっておられます。

8歳7ヶ月で亡くなる前は辛い治療が続いたようですが彼は母親の前では泣かないと言うことを病院のスタッフから聞いて我が子の思いやりと力強さを教えられたとのことでした。そしてゆっぴいは家族の誇りだったと話を結ばれました。重い障害のある子どもたちは不安やつらさを乗り越えて生きているので力強いパワーを持っていると改めて感じました。

「感謝の集い」



「全国重症心身障害児(者)を守る会」に長年にわたり様々な形でご支援頂いた15の個人・団体の方々に感謝状が贈呈されました。会の創立前から重症児者の窮状を広く社会に伝えるなど、今日の重症児者施策の礎を築かれた秋山ちえ子さんを始め多方面に渡る方々のご支援があったことを知りました。昭和40年5月から1年間にわたり重症児者に関する記事を連載された朝日新聞社の元記者有馬さんのご挨拶がありました。



50年前の予算時期の国会であまり運動に慣れていないお母さんたちに出逢いました。でも地道に必死に子どもたちのために要求をされている姿を見て重症児者のことを初めて知りました。それから1年間重症児者の連載記事を書きました。あれから50年重症児者の施策は進展してきました。「守る会」のみなさんのあきらめない活動があったからだと思います。

私は今の時代だからこそ「守る会」の理念がとても大切だと思っています。

その後懇親会が始まり楽しく交流をしました。

ブロックの方々から「昨年の石川大会はよかった」との声もかけられました。また、一昨年上映会を行った「普通に生きる」の映画の中で紹介された通所施設「でらーと」の小林所長にもお会いしました。

翌日の式典準備のため早めに懇親会が開きになったので、石川の8人と富山支部の2人も合わせて地域別交流会を永井さんのお世話で開催しました。とても楽しく有効な会でした。

2日目 創立50周年記念式典

創立50周年記念式典ということもあり、厚生労働大臣政務官、文部科学省政務官、東京都知事を始め行政機関、国立病院機構、各施設などから多数の来賓の方々が参加されました。

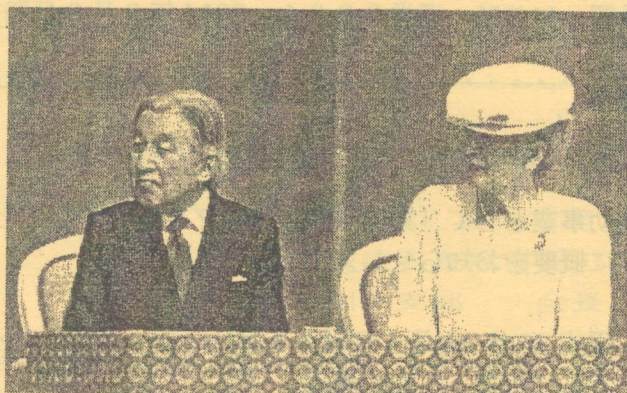
天皇・皇后両陛下も桂宮様のご逝去に伴う喪中にもかかわらずご臨席されました。

在宅の親と通所の親の代表が1名ずつ発表した体験にも耳を傾けて拍手を送っておられました。

誓いの言葉の発表が終わり退席されるときも通路の両側の会員と会釈を交わされていました。

改めて「全国重症心身障害児を守る会」が長年にわたりその時々の子どもの情勢を踏まえながら、しかし「最も弱いものをめたく守る」という理念を手放さず地道に活動してきた歴史に触れることができました。

これから先もこの会の一員として活動できることを誇りにしたいと思いました。



「全国重症心身障害児(者)を守る会」の創立50周年記念大会に出席された
天皇、皇后両陛下=9日午前、東京都内のホテル

天皇、皇后両陛下は9日、東京都港区のホテルで開かれた「全国重症心身障害児(者)を守る会」の創立50周年記念大会に出席された。

昼食会のお知らせ

今年度1回目の昼食会を開きます。

日・時 平成26年8月31日(日)12時～
場 所 カフェ・マダム・ルロワ
かほく市学園台2丁目60-2 看護大学の向かい
TEL 076-20 5-7992
会 費 2000円

* 申し込みの時に肉料理か魚料理かをお伝え下さい

申し込み 入所の方 松本さん・TEL 283-4432
在宅の方 紺井さん・TEL 288-5413

多数の皆さんのご参加をお待ちしています。



第三種郵便物承認 HSK 通巻3891 2014年8月8日発行



競輪補助事業

療育キャンプのお知らせ

今年度本部補助事業として「集団療育キャンプを実施することになりました。以下に概要をお知らせします。



日・時 平成26年10月4日(土)~5日(日)

場 所 かんぼの郷 白山尾口

石川県白山市尾口村字瀬戸 卯43-3

参加者 対象者 重症児者・・・8名 保護者・・・8名

スタッフ 医師 看護師 補助員など

ボランティア 8名

内 容 昆虫館見学 講演会 入浴 懇親会・・・など

参加費 親子で1万5千円です。

*参加を希望される方は紺井さんまで申し込んで下さい。

TEL・FAX 076-588-5413

尚、かんぼの郷の予約の都合上参加申し込みは定員になり次第締め切らせて頂きますのでご了承下さい。

会員の現況

正会員 74名

賛助会員 30名

編集人 : 石川県重症心身障害児(者)を守る会

連絡先 : 929-0123 石川県能美市中町ツ88-1

TEL 0761-56-0610

会長 山本 衛

発行人 : 北陸障害者定期刊行物協会

富山市今泉312番地

定 価 30円